

市制施行 70 周年記念企画展 カメラレンズがとらえた 70 年

令和 7 年 3 月 8 日（土）～ 5 月 6 日（火）



秦野駅北口 平成 7 (1995) 年

はじめに

令和 7 年 1 月 1 日、秦野市は市制施行 70 周年の節目を迎えました。時の経過は街並みだけでなく、価値観などの大きな変化をもたらしました。

市にはこれまで広報紙の発行や事業記録のために撮影された数多くの写真が残されており、その数は 10 万点をはるかに超えるものとみられています。

これらの写真は担当課から市史編さん部局を経て、現在は博物館資料として保管・活用されています。

日常的な光景が切り取られているため、芸術写真のような美しさはありませんが、その当時の街角や人々の様子を具体的に伝えるものです。

今回の企画展では、そのなつかしい光景を紹介していきます。

秦 野 駅

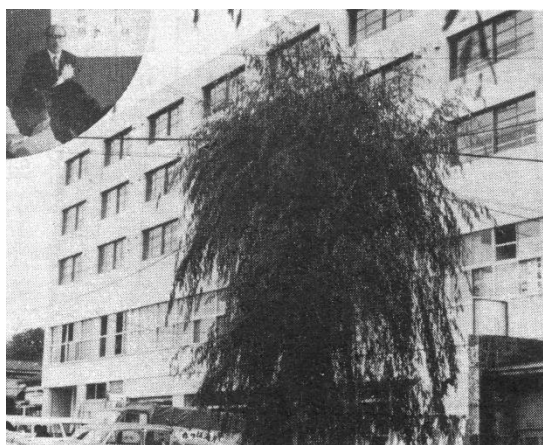


大秦野駅 昭和 38(1963)年

景観が大きく様変わりした例として駅周辺について見てみましょう。

秦野駅は昭和 2(1927)年、「大秦野(おおはたの)駅」の名で開設されました。この駅舎は小田急の「五大停車場(新松田・大秦野・本厚木・町田・向ヶ丘遊園)」で採用された「マンサード型」の屋根を持つタイプでしたが、昭和 38(1963)年ごろに建て替えられています。

この頃から駅前広場の拡張整備事業が本格化し、用地買収や家屋移転が行われていきます。



大秦ショッピングセンター
昭和 41(1966)年

昭和 41(1966)年には拡張整備の象徴とも言える大秦(たいしん)ショッピングセンターが完成、鉄筋 5 階建ての建物の 1・2 階に 22 店が出店、3 階以上は賃貸アパートでした。

しかしながら駅前広場拡張は一部の移転未了物件を残したまま 10 年以上進捗が見られず、最後に残された借地権者の移転問題が終結したのが昭和 54(1979)年で、翌年に拡張工事が完了します。



大秦野駅 昭和 55(1980)年

昭和 62(1987)年に駅名を「秦野(はだの)駅」に改めると平成元(1989)年には昭和橋が架け替えられ、まほろば大橋と改称されました。

北口広場の拡張が一段落すると、駅南部の土地区画整理事業が始まり、水田と畑が順次宅地化していき、平成 6(1994)年には駅に南口改札が設置されました。

平成 7(1995)年からは駅舎の改築が始まり、平成 9(1997)年には北口のペDESTリアンデッキと南口広場が完成し、現在の秦野駅の原型が出来上がりました。

この後、築 50 年を目途に大秦ショ

ショッピングセンターは姿を消し、平成 30(2018)年には地上 10 階地下 1 階のマンションが建設され、これに沿う形でデッキが延伸されています。

市 庁 舎

秦野市が誕生した昭和 30(1955)年当時、庁舎は寿町にあった大正 15 (1926) 年築の旧秦野町役場(現在は消防第 1 分団第 5 部、はだのこども館が所在)を本庁舎とし、旧町村の役場を支所としていました。



秦野市役所 昭和 42(1967)年

また、同年 7 月に西秦野村と上秦野村とが合併して誕生し、昭和 38(1963)年に秦野市と合併することとなる西秦野町では並木町にあった旧西秦野村役場(現在は消防第 6 分団第 7 部、学校前商店会駐車場)を庁舎としていました。

秦野市役所の本庁舎は商業中心地に立地し、その周辺には消防本部や中央公民館も存在していました。しかし西秦野町との合併によって庁舎内は手狭となり、周辺に分庁舎を置くものの急速にその機能に支障をきたし、建物の老朽と危険、狭隘、分散による不便



西秦野町役場 昭和 42(1967)年

と非効率など、多くの問題を抱えることとなりました。

このため、市庁舎新築の必要性が高まり、昭和 41 (1966) 年 11 月、庁舎建設審議会が設置され、この答申をもとに全議員の賛意を得て新築計画が進められました。

起工式は昭和 43 (1968) 年 5 月 27 日に行われ、当時の加藤喜太郎市長によるクワ入れ式が行われました。

新庁舎が竣工し開庁式が行われたのは、昭和 44 (1969) 年 10 月 10 日でしたが、この時テープカットを行ったのは、この年の 3 月に就任した栗原藤次市長でした。

翌年 1 月 31 日、市制 15 周年と合わせて新庁舎落成記念式典が挙行されました。



秦野市役所 昭和 45(1970)年

景 観



本町四ツ角 昭和 30(1955)年

日常的に見かける街角で、最も変化が目立つ一つの例は商店街でしょう。閉店する店もあれば開店する店もある。特に大型のショッピングセンターなどはランドマーク的存在で、その変化は景観に大きな影響を与えます。



旧「忠実屋」建物解体工事
平成 19(2007)年

また、団地の建設、大規模な分譲地造成が行われると、その周辺は大きく様変わりします。



オレンジヒル 昭和 57(1982)年

おわりに

西秦野町との合併により、これまで約 4 万人であった人口が約 5 万 3 千人に増加すると、市は 10 万都市の実現に向けて動き出します。

曽屋原には大規模な工場が誘致され、ここに働く人々やその家族が転入。また、交通網の発達に伴い京浜地区のベッドタウンとしての役割も担うようになり、昭和 50(1975)年に目標だった人口 10 万人を達成、昭和 63(1988)年に 15 万人を超えました。

そしてこれに対応して、インフラ整備や公共施設の建設が進められました。

しかし、現在の状況を見ると大きな難局に直面しているのも事実です。カメラはこれを乗り越えて未来に向かって私たちの姿を写し続けていくことでしょう。

発行 令和 7 年 3 月 8 日

編集 〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下 380-3

はだの歴史博物館 Tel. 0463-87-5542 FAX 0463-87-5794